

「日本博の魅力発信！」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月28日(土)13:00~15:00
2. 場所：高知県民文化ホール
3. 登壇者：
文化庁 参事官（芸術文化担当）付 新文化芸術創造活動推進室 廣野宏正
東京国立近代美術館 主任研究員 隈研吾展キュレーター 保坂健二郎
建築家 東京藝術大学准教授 藤村龍至

(プログラム)

1. オープニング 「日本博について」 廣野宏正
2. 講演 「日本博：隈研吾展について」 保坂健二郎
3. バーチャル体験「体験！隈研吾展」
4. トークセッション「日本博の魅力、隈研吾建築の魅力について」
ファシリテーター 廣野宏正
パネリスト 藤村龍至／保坂健二郎

* 敬称略・順不同

1. オープニング

日本博の総合テーマは「日本人と自然」。これを基本コンセプトとして共有し、日本博総合推進会議のもと、文化庁が中心となって、関係府省庁、文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の皆様と連携・協力し、オールジャパンで取り組む国家プロジェクトです。2019年度より全国各地で日本博を展開しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、見直しや中止になった取組もありました。しかしオンライン展覧会の取組など、with コロナ時代ならではの工夫を凝らし、日本博の魅力発信に取り組んでいます。そしてこれらの取り組みが日本の未来をつくり、レガシーとして残っていくのだと考えています。

2. 講演「日本博：隈研吾展について」

日本博のプログラムの1つ、隈研吾展は高知、長崎、東京の美術館で開催される巡回展です。本来は東京を皮切りにする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のために東京会場は延期となり、高知からのスタートとなりました。

同展覧会には「新しい公共性をつくるためのネコの5原則」というサブタイトルが付いているように、メインパートは「東京計画 2020 ネコちゃん建築の5656^{ごろごろ}原則」。ネコの観点を中心にして、今後

都市を考える上での1つのキーワードにするというものです。

また映像による展示も隈研吾展の特徴です。隈さんが提案する新しい公共空間、新しい公共性が伝わる展示会になっていると思います。

3. バーチャル体験「体験！隈研吾展」

隈研吾さんは和の大家と呼ばれていますが、フランスやイギリス、イタリアなど、世界中でさまざまなプロジェクトを動かしています。それら世界のプロジェクトにおいても、日本の美を根底において設計されています。

この展覧会では隈さん自ら公共性の高い建築物を選び、「孔」「粒子」「ななめ」「やわらかい」「時間」という隈さんが日本の美を普遍化するために考えた5原則にのっとって分類し、紹介されます。

隈さんが5原則を通して日本の美を普遍化し、いかに世界の人に親しまれている空間につながっているのか。それをぜひ、この展示会で見てほしいと思います。

4. トークセッション「日本博の魅力、隈研吾建築の魅力について」

①藤村

隈さんとは1度だけ設計の仕事で一緒したことがあります。そのとき感じたのは、隈さんは独特のリズム感で設計されているんだなということ。また寸法にこだわる建築家が多い中で、隈さんはそこにはあまりこだわりがなく、最初のモジュールを決めるまでが時間がかかるということです。ものづくりの世界の言葉で言うと、すりあわせ型ではなくモジュール型に近いのかなと感じています。だからリノベーションでも隈さんの味わいが出てくるのだと思います。

隈研吾展で一番の問いかけは最後の「東京計画 2020」のパート。データで都市が計画される時代にそれを追認するだけでいいのか、みなで考えられるといいなと思いました。

②保坂

隈さんの建築から見えてくる日本の美は、表面的なもの、構造的なもの、つまり見える部分と見えない部分の2つあるのではと感じています。それらのバランスが面白いのですが、そのことを知ってほしくて、今回の展覧会でも言葉を紡いだり、映像を作ったりすることに取り組みました。

またもう一つ知ってほしいのは、神社に象徴されるような、素材なり形なりにこだわった洗練された空間はもちろんですが、居酒屋の空間も日本の美を代表するものであること。この多様性は隈研吾展だから、見せることができた多様性だと思います。

隈さんの建築は、幸い日本各地にあるので、ぜひ実物を見ていただくと、展覧会がより深く楽しめると思います。

以上